平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	１４	都道府県・指定都市名	神奈川県
学校名（生徒数）	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校（507）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：〒248-0005　神奈川県鎌倉市雪ノ下 3-5-10
電話番号：0467(22)2033　FAX 0467(23)5216　E-mail kenkyu-kjhs@ynu.ac.jp
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.kamajhs.ynu.ac.jp/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：美術科
○研究のキーワード：「A 表現」と「B 鑑賞」の関連，「思考力・判断力・表現力等」の育成，「発想ノート」
○研究成果のポイント：
・「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」領域の特性を踏まえ，育成する資質や能力を明確にした授業改善。
・「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の関連に重点を置いた学習課題の具体化と指導計画の整理。
・学力の３つの要素の育成における「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」を関連の有効性。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

「学力の３つの要素をバランスよく育てる指導と評価」
～領域の特性を踏まえ，育てたい資質や能力を明確にした授業改善～

（２）研究主題設定の理由

本校では，平成２３年度より「学力の３つの要素をバランスよく育てる指導と評価」を軸に研究を進めてきた。その中で，美術科では特に「発想や構想の能力」と「鑑賞の能力」の関連に重点を置き，育成する資質や能力を明確にし，学習評価を効果的に機能させることにより，生徒が主体的に目的や意図を明確にして学習活動に取り組み，創造活動の喜びを味わったり，美術文化に対する理解を深めたりできるような指導方法の工夫改善を行ってきた。本研究でも，これまで本校ですすめてきた研究を基に，「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」それぞれの領域の特性を踏まえ，育成する資質や能力を明確にした，効果的な美術の指導方法等を明らかにすることを目的としている。

（３）研究体制

・校内研究会において研究授業（検証授業）を実践し，研究協議を通して，育成する資質　や能力と学習内容との関係を明確にする。
・本学教員，神奈川県・他都県の公立校教員らの協力を仰ぎ，授業内容の改善や学習評価　の妥当性・信頼等について検証する。
・定例研究会（月２回）において，教科を横断した小グループによる事前研究・授業参観　・研究協議会を行い，授業の様子を記録し，検証する。

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年	○「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の関連を考慮し，３年間を見通した年間指導計画及び評価計画の作成。 ○「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」それぞれの領域の特性を踏まえ，育成する資質や能力を明確にした授業改善を行う。

度	○実現状況を作品や生徒の記述（ノート，ワークシート等）の内容から的確に読み　取り，把握するために，仮説・実践・検証・修正を繰り返し，授業改善の内容や　生徒の変容を記録するなど蓄積していく。 ○作品と生徒の記述（ノート，ワークシート等）を関連付けた評価方法の整理。

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の関連した学習として，題材ごとに相互鑑賞の時間を設けることや，生徒自身が生活の中にある美を探し，まとめていくことを継続して行った。

○年間指導計画において「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」が交互になるよう設定し，鑑賞の活動で培った力が，表現の学習において発想や構想の場面で効果的に働くようにしたり，表現で学習したことが鑑賞の学習に生かされるよう関連性のある題材を設定した。

○「発想や構想の能力」と「鑑賞の能力」の関連に重点を置き，表現に必要な資質や能力や鑑賞のポイントを明確にした授業改善を図った。

○生徒の興味，関心や発想や構想，鑑賞の能力を高めるツールとして，生徒自身の考えを書き留めたり，興味のあるものを貼り付けたりする無地のクロッキー帳（「発想ノート」）を導入した。

○思考力・判断力・表現力等を育てるための学習課題の設定と授業実践を，本学教員，神奈川県・他都県の公立校教員の協力を得ながら，授業中の観察，生徒の作品やノートの記述等を複数の目で確認しながら，研究成果を検証した。

・校内研究会での教科グループ会議における情報交換および意見収集（月２回）

・神奈川県教育委員会，横浜国立大学の共同研究者との事前研究会（年２回）

・年３回の校内研究授業と研究協議会を実施する（５月・９月・１月）

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○それぞれの領域や指導内容を踏まえた指導計画を立て，「A表現」と「B鑑賞」を関連づけた授業づくりを行うことで，「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」それぞれの活動において，生徒自身が，自分のやりたいことを見付け，主体的に表現したり，新たな価値をつくりだしたりする姿が見られた。

○実現状況を作品や生徒の記述（ノート，ワークシート等）の内容から的確に読み取り把握することが，育成する資質や能力を明確にする授業改善につながることは検証はできたが，実現状況を的確に見取るための時期や回数などの評価場面については，題材に応じてより具体的に考え，効果的に行うことが今後の課題である。

（２）研究成果の意義等

○年間指導計画を「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」が交互になるよう設定し，鑑賞の活動で培った力が，表現の課題の発想や構想の場面で効果的に働くように関連性のある題材を設定したり，相互鑑賞の時間を設け，言語活動の充実を図ったりすることが，発想や構想の能力や鑑賞の能力を高めることに効果的であることが分かった。

○「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」を関連付ける題材を，生徒の実態に応じて系統立てて計画し実施することで，表現に対する多様性が生まれたり鑑賞活動において見方や感じ方を深めたりするなど，主体的に学習する意欲を高め，創造活動の喜びを味わうことにつながった。

（３）指定期間終了後の取組

育てたい学力を効果的に評価する場面と方法については，引き続き本校の研究課題としていく。授業の目標や活動目標を明確に提示し，「発想ノート」やワークシート，作品などを使用しながら生徒と共に確認することを今後も継続していくことで，授業中の生徒の様子をより具体的に把握できるよう，研究を行っていきたい。